

## Wix サービスを用いた地域貢献授業の成果と課題

鷲尾 敦

高田短期大学キャリア育成学科

### 1. はじめに

高等教育機関にある多様な機能を7つに分け、どの機能を打ち出すかによって高等教育機関の個性や特色を明確化にすることが中教審の将来像答申に示された<sup>1</sup>。大学が持つ知財を地域に還元し、地域の発展や問題解決に貢献することが大学に求められ、特にコミュニティカレッジとしての短期大学には、7つの機能のうち「社会貢献機能」「地域の生涯学習機会の拠点」が進むべき方向となっているように思われる。今や積極的な貢献事業やプロジェクトが各大学や短期大学で活発化している<sup>2</sup>。高田短期大学においても、企業や自治体と包括的な連携を取り決め、学科・コースや地域連携研究センターが個々の連携を強めていこうとしている。その一つに、真宗高田派本山専修寺の寺内町である一身田商工振興会との連携事業がある。近年では「一身田印」ブランドの立ち上げに教員や学生が学習の一貫として取り組んでいる。

私が担当するキャリア育成学科の科目「ネットワーク活用」の中でも、一身田商工振興会との連携に取り組んだ。この科目は、ネット上の様々なサービスを学業や生活、仕事で活用できる知識と技術について体験的に学ぶ授業であるが、この授業で利用するクラウドサービスを活用して一身田商工振興会に所属する会員店舗のWeb制作に取り組んだ。具体的には、2015年度は一身田寺内町や高田本山の紹介サイト作り、2016、7年度は一身田寺内町にある商店のWebサイト作りに取り組んだ。Webサイト作りという具体的な課題にCMS(コンテンツ管理システム)であるWixサイトのサービスを用いることで、実際に採用しうるレベルのサイトを学生が構築することができ、店舗や商工振興会の広報としての位置づけで公開されている。また、ゼミナールの卒研課題として、一身田商工振興会のWebサイトとそれに関連する店舗マップをWixおよびGoogleマップのマイプレイス機能で学生が構築した。こちらは、商工振興会会長との度重なる打合せの上、会長が運用できるシステムに出来上がり、日々の運用で活用できるようトップページに張り付けられたブログ更新や問合せ機能が運用されている。

学生が学んだ成果を地域で役立てるサービス・ラーニングが多く大学の大学で進められている。サービス・ラーニングは、専門能力の実践力や、専門能力を活かす汎用力を育成し、地域での活動後、その振り返りによって学習課題の発見をし、次なる学習の目標を見つけることができるアクティブ・ラーニング型の学習形態である。この「ネットワーク活用」やゼミナールの卒業研究テーマとした学生にとっては、まさしくサービス・ラーニングである。本稿では、これらの実践について報告する。

## 2. Wix システムについて

### 2. 1 Wix サービスの特徴

Wix での制作の方法は、Web サイトの目的によって分類されたテンプレートを選ぶことからスタートする。そして、タイトルやメニュー構成、文章、色などを制作者の意図によって変更するだけで、テンプレートのデザインそのままに素晴らしいデザインの Web サイトが構築できる。ページを追加したり、不要なページを削除したりすることも自由であり、デザインを自分好みに改編したり、一から作ったりすることも可能である。カスタマイズするツールも使いやすく、Facebook や Instagram などの SNS や GoogleMap との連携、メール送信やブログなどの機能の追加も手軽にすることができる。デザインだけでなく、機能的にも優れたサイトが HTML や CSS、JavaScript の知識がなくとも構築できる。

### 2. 2 授業課題での利用意義

本学キャリア育成学科では、HTML や CSS などについては、1 年次の「Web デザイン」という授業で学ぶことになっている。しかし、専門とする学科コースではないので、本格的な Web 制作技能を身に付けるものではないため十分な時間もなく、難しいという印象で終わってしまう。仕組みを学び制作する体験は無駄ではなく、様々な種類のメディアを扱いネットを活用することで情報活用能力を高め、総合的な情報活用能力を高めるということが「Web デザイン」の設置のねらいであるが、本格的な制作技能を身につけさせるまでの内容でないため、学修に対する達成感や充実感を学生にもたらすことはできないように思われる。

今後もネットサービスは多様で高度なものが提供されていくであろう。学生が卒業してから自立して情報社会の中で活躍していくには、ネットサービスを自ら活用できる能力は必須であろう。ネットサービスを活用する体験を積み重ね、新たなサービスに対してもどう活用していくかを考えられる力を身につけさせるには、リアルな課題が有効と考えている。そういう視点で一身田寺内町との連携はリアルな体験をする鍵となると考えている。オフィスワークコースでは、一般企業等でオフィスワーカーとして働くための汎用力や専門能力、キャリアデザイン力を育成している。コンピュータを活用する能力もオフィスワークで実践的に使える能力育成を目指している。その中であって、学ぶために作られた課題というのでは、課題に取り組む姿勢が単位をとることだけを目的としたものとなり、学生の意欲を引き出せない。地域で求められるものを自分が作成し使ってもらえるというリアルな課題、そして地域に貢献できるという課題は、学生の取り組み意欲を高めるであろう。また、1 年次に Web デザインという授業で HTML や CSS の難しさに苦勞する割になかなか思うようなデザインができなかったが、Wix では、デザインだけに注視すればよく、作品完成時における学生の達成感は高くなると考えている。

## 3. 「ネットワーク活用」概要と地域貢献活動

「ネットワーク活用」は、キャリア育成学科オフィスワークコースの 2 年生を対象とした科目で、「クラウドサービスを活用してネットライフを高める」ことを目指し、「①インターネット上の各種クラウドサービスでできる機能と効用を理解し利用することができる。②インターネット上のサービスを活用す

るにあたって、情報セキュリティや情報モラルについての理解と正しい利用姿勢を身につける。

③ネット上のサービスを学業、生活、将来の仕事に活用できる能力と態度を身につける」を到達目標としている。2017年度開講した15回の内容は表1の通りである。この授業は、2014年度より2年生後期科目として開講したが、2016年度から2年生前期に開講となった。今後の学習活動、とりわけ卒業研究で役立つネットサービスや社会生活を送る上で役立つと思われるネットサービスを取り上げて、実際に活用する内容である。利用するネットサービスは、グループウェアの「サイボウズ

表1 2017年度「ネットワーク活用」の流れ

授業回	授業内容	備考(利用サイト、他)
1	ガイダンス ネット活用のセキュリティ、ネットモラル	IPA情報セキュリティ普及啓発映像 (YouTube)
2	グループウェアサイトの活用 ネットモラル・ネットセキュリティ(授業外学習)	サイボウズLive
3	サイボウズLiveでのグループ活動実践 ネットモラル・ネットセキュリティ(授業外学習)	サイボウズLive
4	Google 検索機能と情報ハンティング課題	Google検索
5	GoogleChromeの設定と活用	Googleアカウントサービス GoogleChrome
6	GoogleChromeの設定と活用	Googleアカウントサービス GoogleChrome
7	EverNoteの活用 Google拡張機能との連携(EverNote Web Clipper)	EverNote
8	ストレージサービスの活用 ネットアプリの活用、共有(スプレッドシート)	Googleドライブ Googleスプレッドシート
9	ネットアプリの活用 Googleドキュメント CMSの利用 Wixサービスについて	Googleドキュメント
10	CMSの活用課題 一身田寺内町の店舗Webサイトの構築 ページ作りのための店主とのディスカッション	
11	Wixの使い方	W i x
12	Wixでの課題制作	この期間に、各グループで店舗取材
13	Wixでの課題制作	
14	完成・公開 ネットアプリの活用 アンケート作成	Wix Googleフォーム
15	ネットアプリの活用 相互評価 作品の修正	Wix

Live]、あらゆる情報をメモとして整理できる「EverNote」、ストレージサービスの「Google ドライブ」やそれに関連して office 互換のネットアプリである「Google ドキュメント」「Google スプレッドシート」、ネットアンケート作成及び実施支援サービスの「Google フォーム」、様々な動画資料を共有できる「Youtube」、そして、CMS (コンテンツ管理システム) サービスの「Wix」である。YouTube に関しては、IPA 動画セキュリティ普及映像を参照して情報セキュリティやマナーについての学習をさせたり、Wix の説明動画も授業時間外で参照させ、できるだけ授業中には制作とその質問対応に回せるよう反転授業的な工夫にも活用した。YouTube の動画資料の参照以外は、学生が実際にアカウントを取得してサービスを活用する場面を用意した。

この中で、本稿の報告対象となる Wix サービスを用いる課題は、開講した初めての年の 2014 年度は自由課題であったが、2015 年度は一身田寺内町との連携として、一身田寺内町あるいは高田本山の紹介サイト構築とした。そして、2016 年度からは、一身田商工振興会会員店舗の Web サイト構築を課題としている。公開中の 2016 年度学生作品は 4 店舗 23 サイトであり、2017 年度は 4 店舗 20 サイトである。いずれも 2017 年度ゼミ学生制作による一身田商工振興会サイトからリンクが繋がっている。学生作品のうち、内容に誤りがあったりもともとのテンプレートにあった不要なアイコン等が残っているような完成度の低いサイトはリンクから外してある。

#### 4. Wixによる課題制作の流れ

表2に示すように、2017年度、一身田寺内町にある4つの商店のWebサイト構築課題は、9回目の授業の最後の方で、予告として課題内容の説明やプロジェクトの意義、そしてWixサイトの特徴とできることを説明し、制作方法についてのYouTube上の動画コンテンツを紹介した。次の6月末日となった10回目に一身田商工振興会の会長をはじめとする今回対象となる店舗の店主に来ていただき、お店の紹介とWebサイトに希望する点について学生全体に説明をしていただいた。

それを受けて学生が作りたい商店の希望をGoogleフォームによるネットアンケートで提出させ、その場で、店舗ごとの4つのグループに分けた。それぞれ店主とサイトの内容やデザインについてディスカッションした(図1)。事前に店主に作成を依頼していた「Webサイトヒアリングシート」を各グループで学生に配布し、より詳細なサイト説明や要望を店主が語った。学生はそれについて質問し、店主と制作するWebサイトについてより具体的な方向性を決めていき、最後には店舗の取材日を決めた。なお、ヒアリングシートは、Webサイトを構築するにあたって必要な情報を事前に記載するシートで、これを用いることによって、店主の方が作成したいサイトのイメージを具体化したり、必要な情報を事前に用意できるメリットがある。

表2 「ネットワーク活用」課題制作の流れ

- =====
- ①課題説明とWixサービスについて(9回目授業)  
課題の説明とプロジェクトの意義、Wixサービスについて、制作手順、動画資料紹介
  - ②店主によるプレゼンと店選び(10回目授業)  
一身田寺内町の店主4名による店舗紹介、グループ分け。
  - ③店主との意見交換(10回目授業)  
学生グループと店主で、制作するWebサイトについて討論
  - ④取材・情報収集(授業時間外。10~14回授業までの期間)  
グループで各店舗へ取材。店舗によっては複数回。  
日程都合上取材に行けない学生もあり。
  - ⑤Wixについての理解(11回目授業、ネット上動画教材視聴)  
Wixのアカウント取得と制作方法の紹介。
  - ⑥制作(11回目授業~14回目授業)
  - ⑦相互評価(14, 15回目授業)  
改善に向け、Googleフォームによるアンケート
  - ⑧修正



図1 店主とのグループディスカッションの様子

店舗のWebサイト制作に関しては、7月に入ってから20日あまりという短い期間での制作となった。制作の方法は、取材等の情報収集は一緒に行くが、制作は各自で行うとした。

14、15回目の授業では、作品の改善に向けて学生同士の相互評価の仕組みを用意した。Google フォームの活用もこの授業では重要と考えているので、作品の評価をネットアンケートを通じて行った。全員に作品を見てもらうのは、たくさんの視点で見てもらえるので良いが、自分自身も全学生の作品を見なければならぬことになるのでとても負担となり時間も足らなくなる。そこで、グループごとにアンケート評価する店舗を決めた。学生は、それぞれ1店舗10程度の作品の評価をする。また、10名程度の学生から改善に向けた評価を得ることになる。学生は、制作した作品の公開アドレスと、アンケートのURLを授業用のサイボウズLiveの掲示板に記載する。評価をする際は、評価する店舗の学生らの掲示板を参照し、掲載されたURLで作品を閲覧してアンケートに答える。

2016年度当初は完成した作品の中で店主が一つを商店の正式なサイトとして採用することを考えていたが、学生の作品群を前にして、学生と一身田商工振興会の連携こそ地域に知ってほしいということを一身体商工振興会会長が願い、完成した学生作品で掲載可能なものを全て掲載することで継続的な連携を行うことをすることにした。したがって、現在は店舗での運用には使われていない。

## 5. 卒業研究での地域貢献活動

一身体商工振興会のWebサイトをWixを使って制作する卒業研究テーマをゼミ学生に提示したところ、一人の学生がこれに応じた。後日、Google マップを利用した一身体商工振興会会員店舗マップ制作を別の学生が研究テーマとして応じ、一身体商工振興会サイトにつなげた。2017年5月から12月までの8か月間の間に、一身体商工振興会会長や私と打ち合わせを持ちながら活動を進めた。各打合せの内容を表3に、打合せの様子を図2に示す。また、Webサイト制作の流れを表4に示す。

学生は、「ネットワーク活用」で1店舗の制作を経験しているが、第一回打合せ時には、制作体験をしていない。本格運用するサイト作りをするには、経験がない状態であった。そのため、試行錯誤で制作を進めていけるよう試作用の自己アカウントを用意した。まずは、学生の感性を大事にしようということで、テンプレートの選択とトップページの写真、ヘッダー部のデザインなど、学生か

表3 一身体商工振興会 Web サイト作り打合せ

=====	
第一回	5月18日(木) 14:40~15:50 サイトのイメージを決めるトップページデザイン、 要望、制作ページの検討、情報の入手
第二回	6月5日(火) 10:40~12:10 「アクセス」、「このページについて」の内容、 バナー、トップ写真、色使いや字体について
第三回	7月3日(木) 14:40~16:10 「ネットワーク活用」の授業成果への入り口、 リストの管理、本番アカウントでの作成、 一身体商工振興会のFacebook ページの利用、 サイトの移行方法について
第四回	8月3日(木) 11:00~12:20 一身体商工振興会アカウントへの移行 ブログの更新方法の指導、各ページの具体的修正
第五回	10月3日(火) 15:00~16:05 SEO対策の検索ワード、モバイル版のメニュー編集 一身体商工振興会のマップ作り、

らの提案に対し意見交換した。

トップページデザインとヘッダーのデザインを決めてから、サイトのページ構成を協議しデザインした。さらには各ページを構成する要素を決定し作成した。ロゴの配置などは最後まで試行錯誤した。

ある程度制作が完了してから、本番用のアカウントに移行した。ページは管理者の変更だけですむが、掲載されている写真の保存場所が、最初に制作したアカウント内に紐づけされているので、あらためて本番アカウントへ写真をアップし、その写真と入れ替え、紐づけをなおした。

次に、SEO 対策を行ったが、なかなか進展しなかった。移行した 10 月以降、他のページからもリンクを貼るなど思考錯誤したが、検索エンジンに現れなかった。Wix の推奨する方法ではうまくいかず、ページタイトルやキーワード等をあらためて検討しなおした。すると 12 月には、どの検索エンジンでも上位 3 番目に来るようになった。

マップ作りは、別の学生が 10 月から参加し、Google マップのマイプレイス機能を使って一身田商工振興会のマイマップを 12 月に完成させ、一身田商工振興会のページとリンクした。

## 6. 成果

### 6. 1 地域貢献活動による Web サイト作品

卒業研究テーマとして制作した「一身田商工振興会」の Web サイトは、公式サイトとして運用されている。一身田地区で様々なイベント開催時に商工振興会会長がトップページのブログを更新しており、学生が作成した Web サイトが実際に活用されている。また、「ネットワーク活用」で作成された受講学生らの作品はこの Web サイトからリンクが貼られ、一身田地区の広報として利用されている。「卒業研究」「ネットワーク活用」で制作されたサイトの関係は図 3 の通りである。

一身田商工振興会サイト (<http://isshindenshoko.wixsite.com/main>) の「高短との連携」ページには、



図 2 一身田商工振興会 Web サイト構築打合せの様子

表 4 一身田商工振興会 Web サイト制作の流れ

- =====
- ①アカウント登録
  - ②テンプレート選択
  - ③ページ構成の検討とページの追加  
Facebook のページ、高短との連携ページなど  
各ページの情報の入手
  - ④各ページ内のコンテンツ追加  
画像やテキスト、ギャラリー、ボタン、ボックス  
ブログ、送信機能、他リンクロゴの配置など
  - ⑤サイト移行  
本番アカウントの用意  
本番アカウントへの移行、写真データの移行
  - ⑥SEO 対策  
Wix の SEO 対策の実行、他サイトからのリンク設定  
検索エンジンの確認、Wix での対策の修正
  - ⑦全体に公開
  - ⑧モバイルサイトの編集
  - ⑨様々機能の確認
  - ⑩一身田商工会会員店舗マップへのリンク

一身田商工振興会とサイト制作における高田大学との連携についての説明が掲載され、「ネットワーク活用」の各年度のトップページへのリンクが設定されている。各年度の学生作品のトップページへアクセスできる（2017年度は、<http://isshinden.wixsite.com/work2017>）。一身田商工振興会サイトは、「一身田商工振興会」で検索すれば、Google や Yahoo などの主要検索サイトにて上位に表示される。



図3 学生らの制作サイト

## 6. 2 サービス・ラーニングとしての学習成果と地域貢献

地元にある一身田地域の店舗の Web サイトを実際に公開して利用してもらうリアルな課題として、学生の学習成果を地域貢献につなげることができた。これは、大学の持つ知財による社会貢献であり、学生の専門能力を活かした地域貢献学習（サービス・ラーニング）である。本学にとっては、教育研究活動の成果が地域に還元され、また学生にとっては、学習した専門的知識技能をリアルな場で使うことによって専門能力に応用力、実践力が身についた。さらには、地域の店舗の方々とコミュニケーションをとって一緒に作り上げていく活動を通して、社会人基礎力やコミュニケーション能力などの汎用的な能力をさらに高めることができた。

### 6. 3 「グループ支援学習」の実践

今回は、40名程度の学生に対し4店舗しかないので、1の店舗に対し10名程度の学生がそのグループに参加することになった。グループは、弱いつながりを持つ制作グループで、次のような方針でグループ活動をさせた。

- ・店舗ごとにグループを作る（学習テーマが同じ）
- ・取材はグループで行う
- ・取材情報はお互いに教えあう（取材に行けない学生がいるので）
- ・制作方法の教えあいを推奨する（メンバーによる相互支援）
- ・各自がGoogleフォームで作品評価用アンケートを作成する
- ・教師側で指定した他のグループの作品の評価を実施する

これは、グループ内で同じ課題目標を持って学習を支援しあう学習形態として「グループ支援学習」と呼ぶ。グループ学習の形態の有効な手段と考えている。グループメンバーが同じ課題を持つが達成するのはそれぞれ個人という設定で、グループメンバーがお互いに協力しあい、支え合って、それぞれの課題を達成していく形態である。グループ学習というと、グループで一つの作品制作を課題としたときに、ともすれば登場するフリーライダーは、この形態では通常問題は生じない。同じ目標を持つが、それぞれがオリジナル作品を制作しなければならぬからである。そして、学び合い、支え合いというグループ学習のメリットが活かせる。

### 5. 4 情報活用能力の向上

「ネットワーク活用」の授業では、様々なネット上のサービス、いわゆるクラウドサービスを活用する場面を用意し活動した。その中でも、Wixを使った課題場面は、リアルな課題であり、社会人となった場合でも、同じようにリアルな課題にクラウドサービスの活用ができるだけの体験を積むことができたように思う。

「ネットワーク活用」の最終授業で学生から授業全体についての感想を求めた。その一部を表5に示す。

表5 「ネットワーク活用」受講生の声

- =====
- ・難しかったけれど何とか完成させることができて良かった。
  - ・モバイル版で編集するのが難しかったです。グーグルのアンケートは思ったより簡単にできるんだなと思いました。
  - ・難しかったけど楽しかったです。もっと時間がほしい。
  - ・卒論のアンケート作りに役に立ちそうです。
  - ・自分のしたかったことができて満足です。
  - ・毎回楽しく授業を受けられました。ありがとうございました。
  - ・WIXなど様々なものが見えるようになりよかった
  - ・サイト作り頑張りました。文章などは全部自分たちで考えなければいけなかったのも、そこに一番手間取りました。また、社長の写真の背景透過もかなり力をいれました（笑）
  - ・みんなのサイトを見ましたがクオリティがすごかったです！
  - ・サイト作りを始めるまでは授業にもついていけてたのですが、サイト作りが始まるとよいものを作るためにはどうしたらいいのか考えながらやっていたらみんなのペースについていけなくなって焦ってます。。
  - ・難しかったけどいい経験ができてよかったです。
  - ・わかるとたのしい
  - ・グーグルのアンケートで意見をもらえたりして、面白かったです。
  - ・Wixのやりかたは、はじめ全然分からなかったですが何回もやってみると分かるようになって嬉しいです。
  - ・どういった文章を載せるかなど非常に悩みます。。
  - ・デザインセンスがないので難しかった。
  - ・写真の配置とか考えるのが大変



学生からは、授業に対し肯定的な意見が多くあった。さらに表 5 からは、Wix での課題について、Wix で制作することの技術的な難しさでなく、Web サイトを構築する際のデザインやコンテンツの内容といった Web サイト構築の上位部分について難しく深く検討した様子が読み取れる。Wix での制作は、HTML や CSS などの Web 制作技術が不要であることから、Web で公開したい内容やコンテンツ、あるいはデザインといった上位のレイヤーに関わる部分に学生の視点を向けることができた。技術的に詳細な知識を身につけるのではなく、上位の部分でものを考える視点を心得る体験ができたことは、技術者にならない学生にとっては有用な経験であったと思う。

以上、この実践課題を通じて、クラウドサービスを活用できること、より実際のより上位の視点で情報をデザインすること、などの情報活用能力を育成できたと考える。

## 7. 今後の課題

「ネットワーク活用」と「卒業研究」で、学生の学習成果が地域貢献になるとともに、学生のネットを活用する力、情報をデザインする力という情報活用能力を高めることができた。

「ネットワーク活用」の課題は、Web サイトは日常業務の中で運営されてこそ役に立つが、毎年単発的な Web サイト制作で終わっている点である。広報としてのページ作りはできているが、運用支援とセットした方法の検討も必要ではないかと考える。

課題の二つ目は、評価である。学生の作品群に対する評価を商店の店主にお願いしたが、時間的な制約があった。学生同士が Google フォームを使って互いに評価をする試みもしたが、こちらも評価の視点がばらばらであった。Google フォームでのアンケート作りを Wix によるサイト構築の前に行い、より良い Web サイトについて考える機会を先に持つことを考えている。これによって、制作に入る段階からより良いサイト作りの視点を持って制作に臨むことができるのではないだろうか。

課題の三つ目は、作品作りそのものである。学生作品がテンプレートの派手なデザインに引っ張られてしまい、深く考えないケースが多く見られた。真に必要な情報、見やすさ、閲覧時の動きの軽快さなどを考えずテンプレートにある大きな画像や動画をそのまま背景に使うこと、テンプレートにあったメニューや SNS へのリンクアイコンや著作権表示などを残してしまうことなど完成したページ全てに責任をもっていないと考えられるケースがあった。また、安易に問合せ機能を使い、送信先メールアドレスの設定が本番用になっていないケースも多々見られた。制作期間が 3 週間程度と短いことによって、作るだけで精一杯で、より良いものに改善していく視点も時間もなかった。そのため店主による制作物の評価、そのフィードバックをする時間すらなかった。また、SEO 対策や携帯端末向けのデザインの検討をする余裕がなかったことも反省点である。

次からは、年度初めに課題を説明し、制作対象のお店を決め、内容について店主との話し合いの機会を早々に持ち、実際の Wix を始めるまでにじっくりと取材ができるように、授業の順番を再検討したいと思う。そして、制作したものに対する相互評価を実質的なものにし、店主からのフィードバックができるよう授業期間のコーディネートをしっかりしていきたいと考えている。

(参考文献)

- 白井、鷺尾、原田 (2017)、「サービスマーケティングにおける COMMON RUBRIC の検討」、名古屋女子大学紀要、63 巻、pp.75-87
- 内閣府経済社会総合研究所 (2016)、「大学等の知と人材を活用した持続可能な地方の創生に関する研究会報告書」、研究会報告書等、No74
- 長谷川真代(2018)、「Wix を用いた Web サイトの構築支援 一身田商工振興会のホームページ制作」、高田短期大学キャリア育成学科オフィスワークコース卒業研究 2017 年度
- 文部科学省 (2005)、「我が国の高等教育の将来像 (中教審答申)」